

# 多めきばよ

発行  
NPO法人 さろんど九谷  
〒922-0861  
石川県加賀市大聖寺地方町1-10-13  
石川県九谷焼美術館内友の会事務局  
TEL・FAX 0761-72-6366  
<http://www.salon-de-kutani.jp>  
発行人 / 古田 章子

題字/北出不二雄

石川県九谷焼美術館友の会会報「ふかむらさき」

2023.12.10 第 40 号

茶房古九谷 期間限定メニュー

## 松山窯 プレート

御菓子処  
山海堂

今 回の松山窯展期間限定特別メニュー「松山窯プレート」は、現代九谷焼作家の池島直人氏による松山窯意皿と御菓子処山海堂製上生菓子が主役。合わせるお茶は正統派青茶「杉林龍鳳茶」。香り高く、すつきりとしたなかに、うまみもある上質な烏龍茶だ。一煎目の香り、二煎目の味わいを堪能した後、その先も何煎も味と香りの変化を味わえる。

一五〇年以上前の職人たちの筆遣いに引けを取らない、見事な筆致の池島氏が手掛けた松山窯意皿と口の中でスッと溶けてゆく、美しくも、はかなさを感じる山海堂製生菓子の組み合わせをぜひ、ご賞味いただきたい。

令 和5年度石川県九谷焼美術館特別展 古  
九谷の再興閉窯一五〇年 大聖寺藩御用  
「松山窯」の開催に向けては、その準備段階のかなり早い時期から、当館の学芸員は何かしらの熱量を発していた。同じ館で働く者の体感として、

九谷焼作家

# 池島直人



て、それがひしひしと伝わってきたのである。

タイトルの如く、何か特別な大規模な展示を始めようとする熱い思い。学芸員が中心となり、多くの人々の思いが時間と共に熟成されてようやく完成する一つの企画展。そして本物の九谷焼を自分の目で見て、感じたいと、はるばる加賀の地を訪れる焼物好きのお客様たち。作品鑑賞後に深く感動されているお客様のその思いにふれることは、このうえない喜びである。

## 感

動のその余韻に浸る、とつておきの時間がほんの少しでも深く長く、心地良いものであればと願う。

特別展 古九谷の再興 閉窯一五〇年  
大聖寺藩御用「松山窯」開催中です。

▼後期展 十二月二日(土)～一月二十八日(日)

# 「松山窯」誌上展

開催中の「松山窯」展が人気です。松山窯は再興九谷の一つであり、大聖寺藩の御用窯として開かれのちに、いくつもの窯元や優れた名工たちを輩出しました。この企画展は地元に伝世する作品を一堂に披露する特別展です。その質の高さばかりでなく、数量にも驚かされます。後期展をご覧いただくと共に、その魅力を『ふかむらさき』で味わっていただこうと、編集者の好みで出来る限り並べてみました。

【解説は石川県九谷焼美術館学芸員の中越康介氏】

雲龍図大平鉢

松山窯 口径45.7cm 個人蔵

本展に出品した全作品の中で、最も寸法が大きいものである。重さは4150gと二位であり、一位は石川県九谷焼美術館蔵の山水家屋図七宝文大平鉢(黄緑入り)の4370gである。名実ともに大作であり、実作品で見る龍の迫力は凄まじい。

松下南柯の夢図平鉢

松山窯 口径34.8cm 個人蔵

南側の木の枝「南柯」の下で夢をみた人物のはかなく、空しい説話で、教訓。本画題のように、多くの九谷焼では、中国の故事来歴や神仙思想等を粉本として取り入れており、当時の職人または指導者の文化・教養レベルの高さを感じられる。



鳥に鉄線図六面徳利

松山窯 高さ17.6cm 個人蔵

六面ともに異なるデザインで、一周に連続性がある。松山窯の出土資料からは同手の破片がいくつも確認されているが、本品のように、伝世品と出土品とが合致するなら、それはそれで問題はないが、現実の多くは、かけ離れており、その理由の追求は今後の課題である。





**山水橋家屋図鉢**  
松山窯 口径24.5cm 個人蔵

人物がいない山水画は、無風流な侘しさを表す一方で、鑑賞者が自由に物語を設定し、その画題の中に、様々な想像をかきたてることができる。見込みの周辺には、紫で雷文繋ぎがグルっと一周配置されているが、その紫の釉薬の流れる方向が全て内側に向っていることから、この器は、上絵窯では、高台面を地面に設置させた形で焼成されたことがわかる。つまり、伏せ焼や、立て焼ではないということである。



**桐に鳳凰図平鉢**（赤、黄緑、青緑入り）  
松山窯 口径35.9cm 石川県立美術館蔵

「赤」、「黄緑」、「青緑」が入る平鉢で、通常の松山窯作品の概念を覆す一品である。本作と同手の平鉢は、加賀市内に1点（本展に展示）と、石川県外に1点が確認されている。少なくとも3点の、平鉢級で同等のデザインのものが存在するということは、大型作品でも組物で制作された可能性を示す。



**鶴仙人図鉢**（黄緑入り）  
松山窯 口径19.1cm 個人蔵

地面は黄緑で塗られ、差し色のように紺青が使われている。鶴に対して、巻物に書かれた内容を読み聞かせているのか、巻物を読んでいる人物を鶴が「おーいまだか、早く背中に乗ってくれ、飛び立つぞ」というようなことを言っている瞬間なのは、わからない。人物と動物が登場する画題はそれほど多くはない。



**羅漢図鉢**  
松山窯 口径22.8cm 個人蔵

羅漢と考えられる人物が膝を抱えて、目をつむり、瞑想状態にある。松樹の包容力と、紺青で塗られた雲のたなびく情景が、鑑賞者に全幅のやすらぎを与えてくれる。